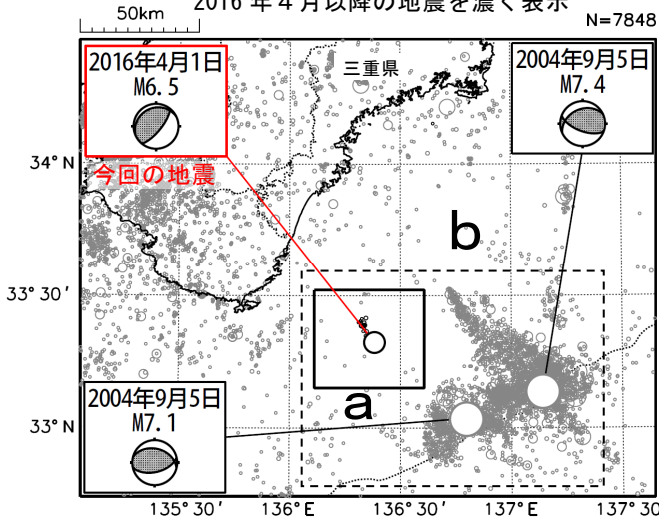


4月1日 三重県南東沖の地震

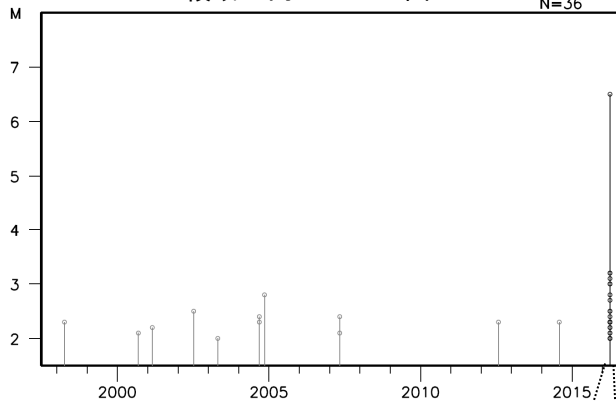
震央分布図

(1997年10月1日～2016年4月6日、
深さ0～80km、 $M \geq 2.0$)

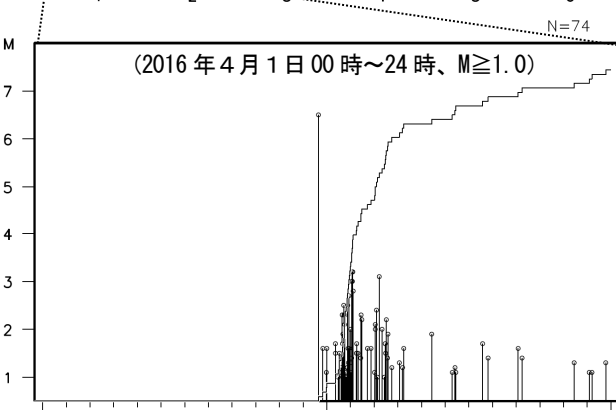
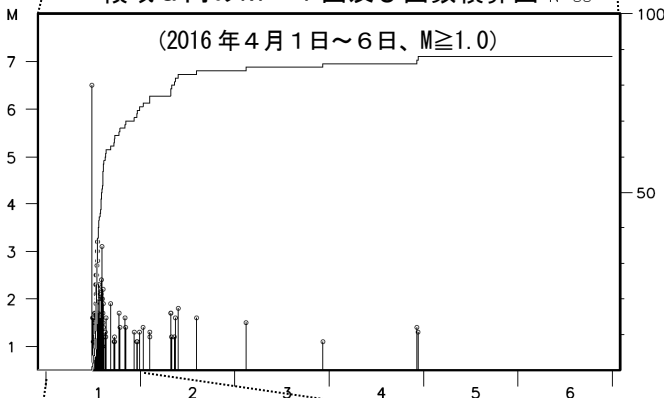
2016年4月以降の地震を濃く表示



領域a内のM-T図



領域a内のM-T図及び回数積算図



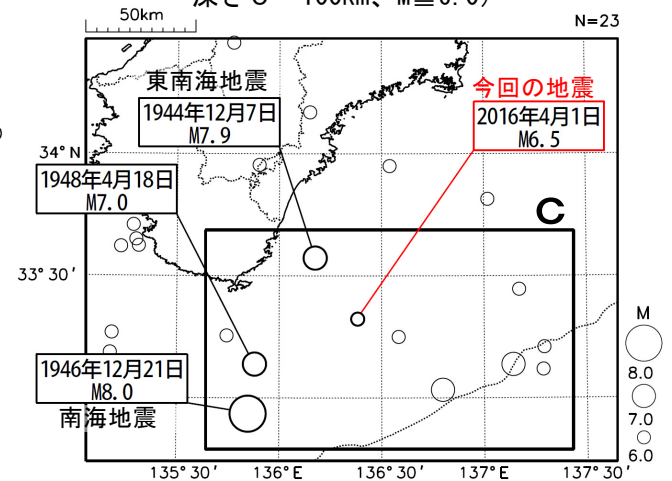
2016年4月1日11時39分に三重県南東沖でM6.5の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は、発震機構 (CMT解) が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界付近で発生した。4月6日現在、震度1以上を観測する余震は発生していない。今回の地震発生直後は、規模の小さな余震がまとまって発生したが、次第に減衰してきている。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近 (領域a) の地震活動は低調であり、M6.0以上の地震は初めてであった。今回の地震の震央周辺 (領域b) では、2004年9月5日23時57分にM7.4の地震 (最大震度5弱) が発生した。この地震により、神津島神津島港で101cmの津波を観測するなど、東北地方から九州地方にかけて津波を観測した。また、同日19時07分にはM7.1の地震 (最大震度5弱) が発生し、関東地方から四国地方にかけて津波を観測した。これらの地震により、負傷者42人などの被害が生じた。

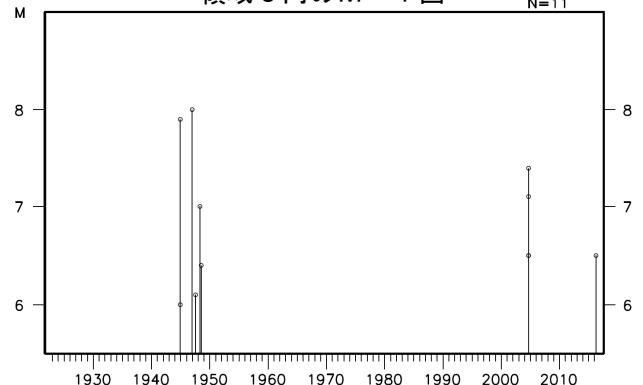
1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺では、1944年12月7日にM7.9の地震 (東南海地震)、1946年12月21日にM8.0の地震 (南海地震) が発生している。

震央分布図

(1923年1月1日～2016年4月6日、
深さ0～100km、 $M \geq 6.0$)

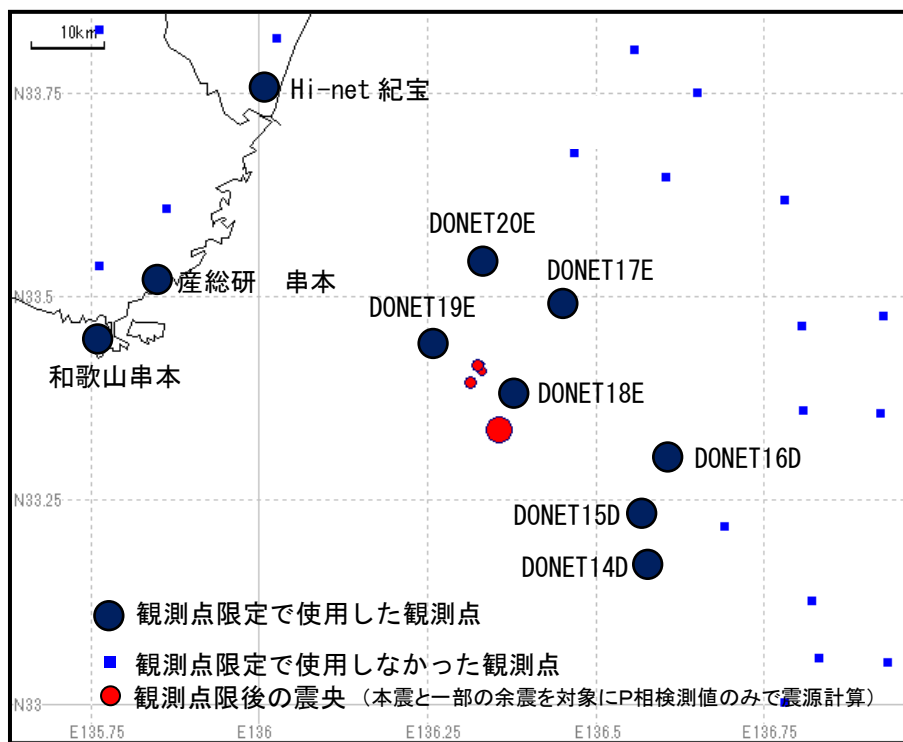


領域c内のM-T図



4月1日 三重県南東沖の地震の震源分布

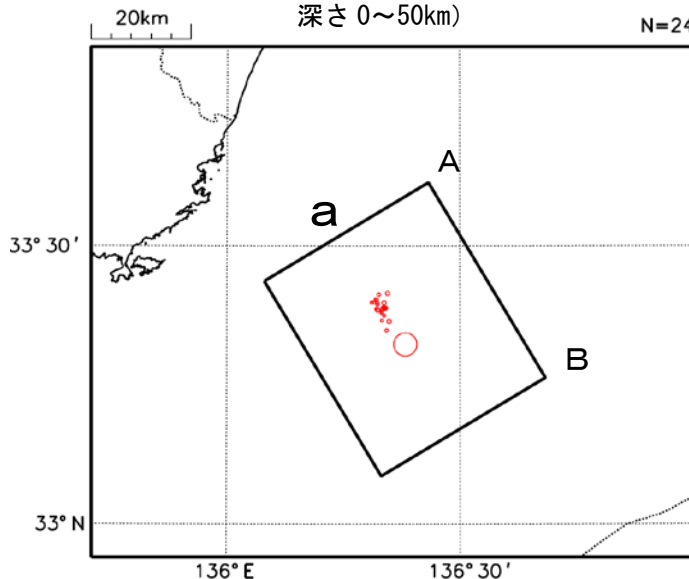
観測点配置図と使用観測点



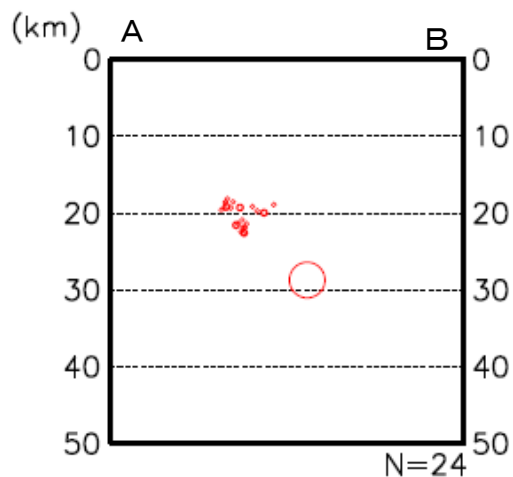
観測点限定前の震央分布図 (暫定震源を表示)

(2016年4月1日~4月2日、 $M \geq 2.0$ 、
深さ 0~50km)

N=24



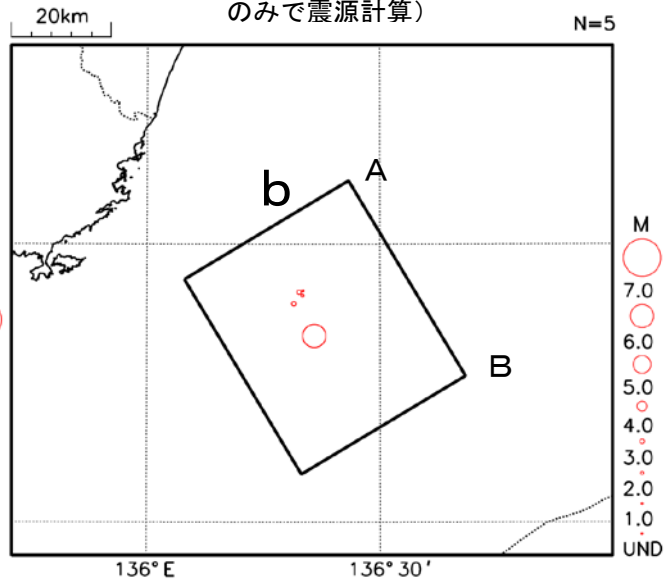
領域 a 内の断面図 (A-B 投影)



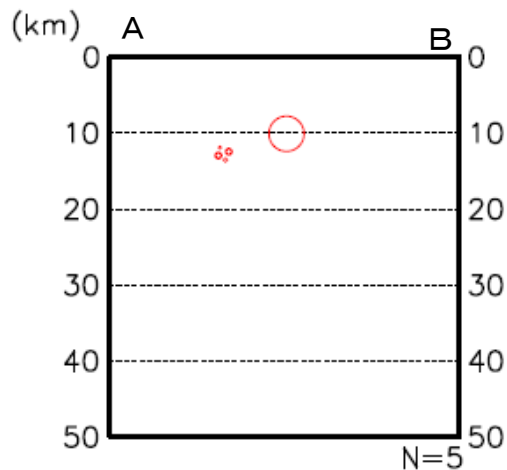
N=24

観測点限定後の震央分布図
(本震と一部の余震を対象にP相検測値
のみで震源計算)

N=5



領域 b 内の断面図 (A-B 投影)



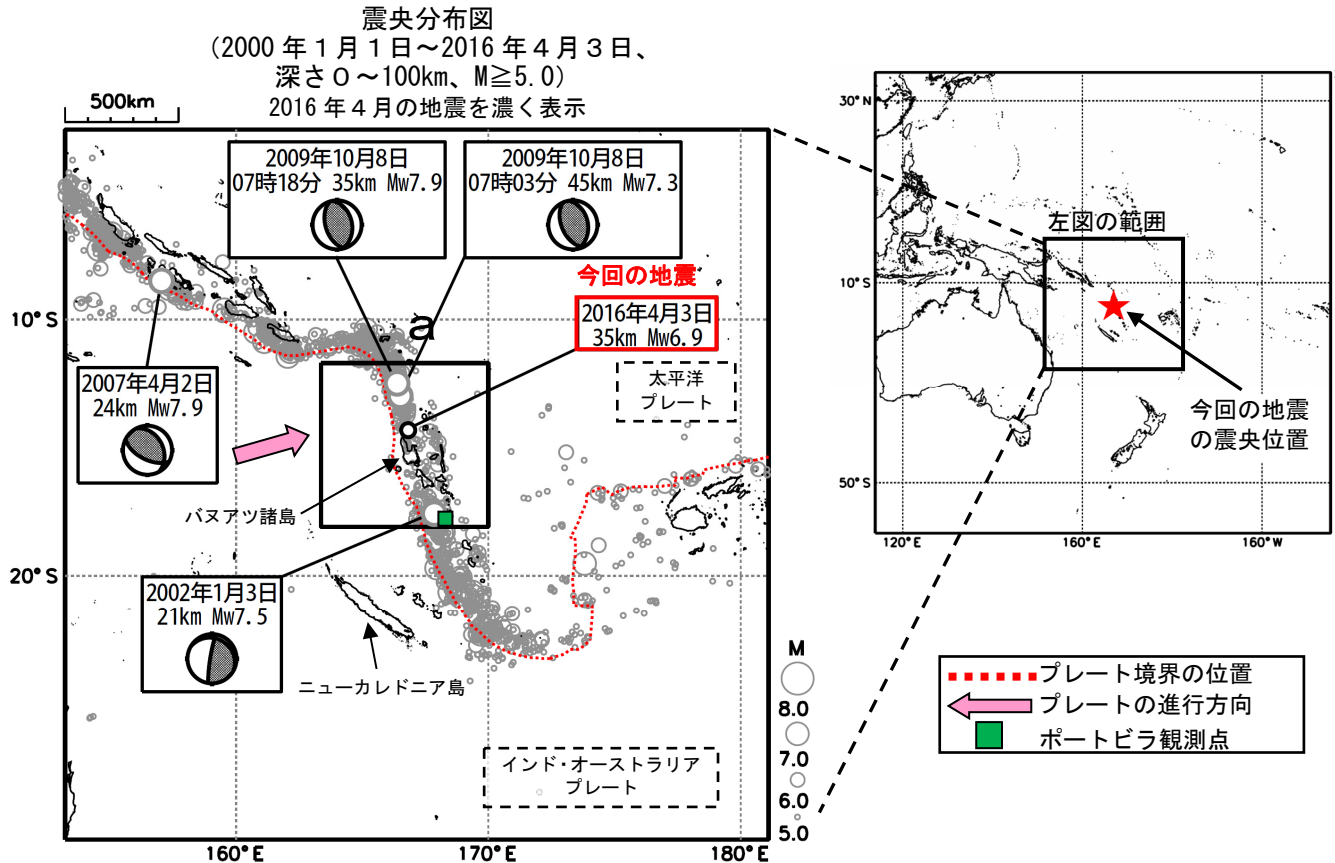
N=5

4月3日 バヌアツ諸島の地震

2016年4月3日17時24分（日本時間、以下同じ）にバヌアツ諸島の深さ35kmでMw6.9（気象庁によるモーメントマグニチュード）の地震が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解（速報））は、東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、インド・オーストラリアプレートと太平洋プレートの境界付近で発生した。

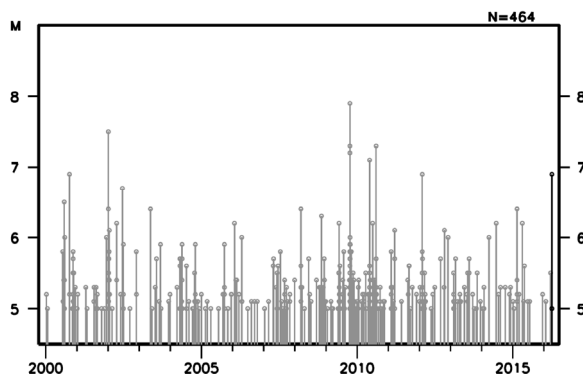
気象庁は、同日17時52分に遠地地震に関する情報（日本国内向け、「日本への津波の有無については現在調査中です。」）を、同日18時53分に遠地地震に関する情報（日本国内向け、「この地震による日本への津波の影響はありません。」）を発表した。この地震による津波は観測されていない。

2000年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域a）では、M7を超える地震も時々発生しており、2009年10月8日には、Mw7.3、Mw7.9の地震が連続して発生し、バヌアツのポートビラで約0.3mの津波を観測した。

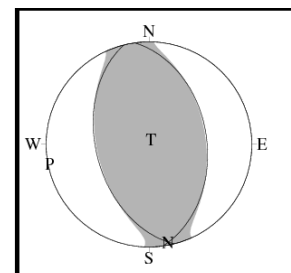


プレートの進行方向は、インド・オーストラリアプレートと太平洋プレートをそれぞれ固定した場合の相対的な方向である。

領域a内のM-T図



今回の地震の発震機構
(気象庁によるCMT解（速報）)



※本資料中、今回の地震の発震機構とMwは気象庁による。その他の地震の発震機構はGlobalCMTによる。震源要素とMwは米国地質調査所（USGS）による。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）*より引用。津波の高さは米国海洋大気庁（NOAA）による。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.